雑餉隈町の魅力再認識①

木造聖観音立像（もくぞうしょうかんのんりゅうぞう）

雑餉隈町２丁目５-２５　福岡県指定有形文化財

子どもたちから「かんのんさま」と呼ばれている雑餉隈聖観世音堂（しょうかんのんどう）のことご存じですか？お堂は保存会の方々がいつもきれいに管理され、格子戸の中には、約 60cm の聖観音立像があります。

ヒノキの寄木造で、頭に透かし彫りの宝冠をつけ、眉間と眼には水晶がはめ込まれているため眼だけは光って見え、両肩に衣をかけた観音像は県内では例がなく珍しい物です。
木像の体内には室町時代 1414 年に作られたという記録があり、600 年を超えています！
宿場町として栄えた時代に、地域の人のみならず、多くの旅人を見守ってくださったのです。
また、赤ちゃんが無事に生まれます様に、そして生まれた赤ちゃんがすくすくと元気に育つようにお守りくださるという伝説があります。その起源となったお祭りが現在雑餉隈町子ども会で毎年行っている提灯行列であり、途絶えることなく今日に至るまで数百年引き継がれています。毎年７月に子どもたちが提灯に灯をともして雑餉隈町区内を練り歩く時は、家の前に出て楽しそうな子どもたちの賑やかな行列に拍手を送り、上級生が担ぐ賽銭箱に賽銭を投げ入れて子ども達の成長を祈ってくださいね。
（鎮西上人の伝説や六月堂というお祭りについて知りたい方は公民館に資料があります。）

※赤司岩男雄著「大野城市巡杖記」より抜粋

つつましやかに構え、訪れるたびに心洗われる空間です。お散歩コースにしてみませんか。